

# 総務財政委員会記録(No.15)

1 日 時 令和5年10月18日(水)

午前 9時59分 開会

午前11時58分 休憩

午後 1時00分 再開

午後 1時34分 閉会

2 場 所 第6委員会室

3 出席委員(10人)

委員 長	佐藤 栄作	副委員 長	三宅 まゆみ
委員	村上 幸一	委員	戸町 武弘
委員	成重 正丈	委員	岡本 義之
委員	大石 正信	委員	篠原 研治
委員	井上 純子	委員	村上 さとこ

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

企画調整局長	柏井 宏之	企画政策部長	森川 洋一
企画課長	一徳 仁	企画担当課長	大西 理恵
財政局長	上田 紘嗣	財務部長	木下 孝則
財政企画担当課長	柳井 礼道		外関係職員

6 事務局職員

委員会担当係長	松永 知子	委員係長	伊藤 大志
---------	-------	------	-------

## 7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	人口増加対策について	企画調整局から別添資料のとおり説明を受けた。
2	大都市財政の実態に即応する財源の拡充について	財政局から別添資料のとおり説明を受けた。本市の個別要望事項については、別添のとおりとすることを決定した。

## 8 会議の経過

○委員長（佐藤栄作君）開会します。

本日は所管事務の調査を行います。

まず、人口増加対策についてを議題とします。

本日は、新ビジョン策定経過の報告、中間取りまとめについて、報告を兼ね、当局の説明を受けます。企画課長。

○企画課長 それでは、人口増加対策について御説明させていただきます。

ファイル名、01、所管事務調査、人口増加対策についてを御覧ください。

8月23日の総務財政委員会では、新ビジョンを検討する際の視点につきまして、1点目に稼げるまちの実現、2点目にハイクオリティなまち、3点目に、市民サービスや都市基盤を適切に維持、充実することで、子供から高齢者、障害の有無、性別、国籍にかかわらず、誰もが安全に安心して暮らせるまちということで御説明させていただきました。さらに、こうした成長と幸福が好循環する成長モデルを実現していくことで、人口減少や少子・高齢化など、世界に先駆けて直面する社会課題の解決に向けた道筋を日本全体やアジアに示しながらの展開ということで御説明させていただきました。

新ビジョンの検討に当たりましては、7月から各区でのミライ・トークを開催してきたほか、市ホームページでの意見募集も現在行っているところでございます。また、後ほどの説明でも触れますけれども、現在も若者などの属性別の意見交換を行っているほか、各関係団体との意見聴取や各区にお住まいの高齢者へのインタビューなど、各局や各区役所と協力して現在実施しているところでございます。

これまで、新ビジョンの策定スケジュールの説明におきまして、10月をめどに、目指す都市像や重点戦略、それにぶら下がる主要な政策の柱などを骨子としてお示しする説明をしてきたところでございますけれども、現在も市民意見聴取が続いている段階でもありますので、市民の皆様にも骨子ということで新ビジョンの中身が固まっている印象を与えてもどうかと思い、中間取りまとめという表現にて説明させていただきます。

まず、資料1として2ページ目を御覧ください。

これまでの意見に基づく、新ビジョンにおける目指す都市像に関する視点についてでございます。北九州市は今、少子・高齢化や人口減少といった日本やアジアも体験したことのない社会課題に直面する中、新たな産業構造への転換、社会経済システムの変革による力強い成長を実現していく必要がございます。これまでも公害などの困難に直面するたび、産学官民連携の力で挑戦、克服し、その成果によってアジアの環境改善などに貢献してきたところでございます。このため、今直面する社会課題にも果敢に挑戦し、同じ社会課題に今後直面する日本、アジア、そして世界に解決の道筋を示していくことで、これからも世界の発展に貢献していきたいという考えでございます。人口減少時代におきましても、町の成長と市民の幸福の好循環を実現し、市民のウェルビーイングが充足されるロールモデルとして世界の発展に貢献する町を実現していくことを、現時点では大きな視点として考えているところでございます。

なお、資料4として19ページに、8月23日の総務財政委員会での報告で配付しました新ビジョンにおける目指す町の視点のイメージ図も参考に添付しておりますので、後ほど併せて御参照ください。

それでは、次のページ、3ページを御覧ください。

目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略ごとに、政策の参考となる意見を基にした視点を整理しております。

まず、稼げるまちの実現ですけれども、人の熱さや産業の力といった北九州市のポテンシャルを最大限に発揮することで、若い世代や女性の定着、移住による稼げるまちを実現し、それによりまして、若者や女性をはじめとした挑戦意欲のある人が定着、また、多様な人材が集まり、町が活力にあふれる中で、さらにワンランク上のライフスタイルが志向されるという考えを掲げております。

また、今回の新ビジョンでは、重点戦略の柱ごとに主要な指標を掲げる考えとしております。稼げるまちの実現におきましては、今のところの例というか候補なんですけれども、例えば市内総生産額、経済成長率、雇用創出数、女性の年齢階級別労働力率などを現在考えているところでございます。

稼げるまちの実現において取り組む政策での重要な視点としては、その下になりますけれども、まず、産業関係では、DXの推進、AIの活用や経営戦略の支援などによる市内企業の生産性向上。脱炭素やエネルギーなどの新たな時代に適合するビジネスの創出。特区などの活用などによる社会実装。IT分野などの企業の誘致。スタートアップ支援によるベンチャー企業の創出。高齢者や障害者など誰もが働き続ける環境づくり。次に、インフラ関係では、物流、人流の活発化に向けた陸海空のインフラ整備。企業誘致に向けた産業用地の創出。また、人材育成関係では、クリエイターなどの起業家の呼び込み。学生などへのアントレプレナーシップ、起業家精神の教育による起業家の育成。リスキリングなどによるDX人材の育成。スタートアップ

プなど若者や女性の挑戦への支援。子育てと仕事の両立支援。学生期における市内企業や地域との関係づくり。アジアの活力の取り込みに向けた高度外国人材の受入れなどを、現時点ではビジョンで掲げる政策の視点としているところでございます。

次のページ、4ページを御覧ください。

重点戦略の2つ目の視点となります。ハイクオリティな都市づくりです。民間投資などを促すことにより、質の高い観光や文化などのサービスや、生活、教育などの環境が体感できるハイクオリティなまちを実現し、町のステータスを上げることで物心両面の豊かさを求める人々がさらに集積し、多様な人々のニーズに応える高質なサービスが提供されることで、この町での消費をさらに喚起という考えを掲げているところでございます。

また、ハイクオリティな都市づくりにおきましては、例えば市内消費額、実質購買力指数、観光客数、商業地地価、住宅地地価などを主要な成果指標の候補として現在考えているところでございます。

ハイクオリティな都市づくりにおいて取り組む政策での重要な視点としましては、まず、まちづくり関係では、小倉地区などにおけるウォーカブルなまちづくり。開発可能区域の見直しによる計画的なまちづくり。移住・定住促進に向けたライフスタイルに応える住環境などの整備。次に、教育関係では、幼稚園から大学までの多様な選択肢となる教育環境の充実。英語教育や理工系教育の充実。新時代の教育機関の誘致。また、サービス関係では、ハイクラスの宿泊施設の整備などによる観光ニーズへの対応。観光地の磨き上げと情報発信の推進。地域における歴史や伝統の継承及び磨き上げ。多様なライフスタイルや価値観に応える文化芸術やスポーツの振興などを、現時点ではビジョンで掲げる政策の視点としているところでございます。

次のページ、5ページを御覧ください。

重点戦略の3つ目の視点となります。市民の安全・安心な暮らしの確保ですけれども、市民サービスや都市基盤を適切に維持、充実することで、子供から高齢者、障害の有無、性別、国籍にかかわらず、安全に安心して暮らせる町を実現し、安心して暮らすことができる場所が整うことで、さらに若者、女性をはじめとした挑戦意欲のある方々がこの町に集まり、働き、消費することで、この町が潤う好循環を実現という考えを掲げております。

また、市民の安全・安心な暮らしの確保におきましては、例えば高齢者、障害者、児童などの実態調査、アンケート調査などになると思っておりますけれども、こういった結果とか、あと、健康寿命、ADL・日常生活自立度などを主要な成果指標の候補として考えているところでございます。

市民の安全・安心な暮らしの確保において取り組む政策での視点としましては、まず、子育て・子供関係では、女性のキャリア支援の視点による子育て支援の充実。地域のつながりを生かした子育て支援の充実。年齢や性別に関係なく楽しく子育てに参加できる環境の整備。子供目線での学校教育の環境の充実。子供の居場所づくり。不登校児やヤングケアラーなどへの支

援。次に、福祉・コミュニティ関係では、個人として尊重され、多様性を受け入れるまちづくり。人と人、人と地域がつながる社会づくりに向けた共助の構築。テーマ別や分野別の市民活動の強化。高齢者や障害者などが安心して暮らせるまちづくり。健康活動の促進による健康寿命の延伸。企業における健康経営の推進。また、防災・防犯・インフラ関係では、減災の視点によるコンパクトシティーの推進。女性などの視点を生かした防犯対策の推進。計画的な公共施設や生活インフラの維持、更新などを現時点ではビジョンで掲げる政策の視点としているところがございます。

以上が、これまで出された意見を参考としまして、新ビジョンにおける目指す都市像、3つの重点戦略、各戦略における政策に関する現在の視点を御説明させていただきました。現在、素案の策定に向けて、これらの視点をベースとしまして市の課題などを踏まえ、庁内各局と協議を行いながら、新ビジョンに掲げる政策の記述などの検討を進めているところがございます。

次のページ、6ページを御覧ください。

新ビジョンにおける目標年次につきましては、2040年とすることとしております。

その下、新ビジョン策定におけます、これまでと今後の作業に関するスケジュールを記載しております。8月23日の総務財政委員会での報告以降も、働く女性、若者、子育て中の親などの属性別の意見交換を行っているほか、各関係団体との意見聴取や各区にお住まいの高齢者へのインタビューなど、各局や各区役所と現在実施しているところがございます。

次のページ、7ページを御覧ください。

今後のスケジュールの予定でございます。あさつての20日に、第3回新ビジョン検討会議にて、本日の報告内容と同じ説明をする予定としております。その後、11月下旬の総務財政委員会及び第4回検討会議にて素案をお示しさせていただきます。12月の1か月間でパブリックコメントを実施する予定としております。そのパブリックコメント期間中の12月16日と17日に東西2か所でミライ・トーク in 北九州を開催する予定としておりますけれども、こちらは詳細が決まり次第、改めてお知らせをさせていただきます。パブコメで出された意見などを反映した最終案を、年明け1月に総務財政委員会と第5回新ビジョン検討会議で報告を行った上で、予算議会に議案として提出する流れとなっております。

以下、資料2としまして8ページでは、各区でこれまで開催しましたミライ・トークの開催実績、資料3として9ページから18ページでは、新ビジョンでの目指す都市像、3つの重点戦略、各戦略における政策に関しまして、現在の視点を検討する上で参考としました、これまで様々な場面で出されてきました主な意見の一覧を取りまとめたものをつけております。

最後に、資料4として19ページに、先ほど申しました8月23日の総務財政委員会での報告で配付しました新ビジョンにおける目指す町の視点的現在のイメージ図を添付しておりますので、後ほど御参照いただければ幸いです。

以上で報告を終了いたします。

**○委員長（佐藤栄作君）** ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。

なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質問、意見はありませんか。大石委員。

**○委員（大石正信君）** 今日の総務財政委員会の所管事務調査は人口増加対策になっています。

しかし、中間取りまとめでは人口増加対策の言及は一言もありません。また、数値目標も示されていません。なぜ人口増加対策に触れられていないのか。そもそも武内市長は、市長選挙の公約で100万都市の復活を掲げて当選をしました。なぜ中間取りまとめで人口増加対策が触れられていないのか、これは問題だと思います。まず、このことについて見解を伺います。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** まず、市長が選挙で掲げられました100万都市復活への挑戦につきましては、6月議会の本会議でも市長から、日本の近代化、経済成長をけん引してきた、かつての北九州市の勢いを取り戻すべく、市民みんなで目指していきたいという思いから掲げてきたと答弁されております。

そうした中で、北九州市の人口減少につきましては、高齢化の進展を背景に、死亡数の増加及び出生数の減少による自然動態のマイナス幅の拡大が大きく影響しております。少子・高齢化による自然動態の改善につきましては、時間を要し、中長期的な視点での対策が必要になってくるものと考えております。人口対策におけます社会動態や自然動態の改善につきましては、新たなビジョンにおける稼げるまちの実現、ハイクオリティな都市づくり、市民の安全・安心な暮らしの確保という3つの重点戦略の視点の下、産業振興、福祉、子育て、教育、文化、スポーツの振興など様々な施策を分野横断的に実施し、総合的に推進していくことで人口対策を進めていきたいと考えております。

新ビジョンに、人口に関する目標や見通しを今回の中間取りまとめでも掲げていないのはなぜかということですが、これまで人口の専門家との意見交換なども行ってきましたけども、専門家の意見の中では、人口は雇用政策、子育て政策、健康づくり、住宅政策など様々な政策の取組の結果であるとの助言もいただいております。また、9月議会の本会議でも、人口に関する評価指標につきましては、社会動態の数字はもちろんだが、市内総生産、合計特殊出生率など様々な指標も併せて成果指標にするべきとの御質問をいただきまして、市長からは、人口に関するデータは都市の活力を表す重要な指標の一つとなり得ると考えているけども、あらゆる政策の総合的な取組の結果でもあると認識している。どのような成果指標を掲げていくのか、またそれをどう組み合わせるのかは、新ビジョンを策定していく中で検討してまいりたいと答弁されております。

こうした点も踏まえますと、先ほど御説明したとおり、それぞれの柱に沿って掲げる予定の様々な指標を達成していくことによりまして、社会動態や自然動態の結果に結びついていく考

えもあるのはありますけども、いずれにしましても、新ビジョンの中で人口対策をどう取り扱うかにつきましては、今後の素案の中で検討してまいりたいと思います。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** 今言われたことが、一言も新ビジョンの策定の中に触れられていない。視点にも入っていない。課長が言われたように、人口は総合的な結果だと。子育てや雇用やまちづくりだとか、そういう結果として人口が増えてくる、それはそうだと思うんですね。

しかし、北九州は日本で一番人口が減少し、年間5,000人から7,000人ぐらいが減っている。だからこそ、武内市長は市長選挙で100万都市の復活を掲げたわけですよ。だからこそ、多くの市民も共感をして当選した。その公約に掲げたことが一言も触れられていない。さっき言われたことが視点であるんだったら、なぜそれを入れていないのか。総合的な結果として、本来は市民所得の向上で、市民にとってみれば100万都市になろうが99万だろうが関係ないわけですよ。本当に北九州に住んでよかったと、働いて市民所得が増え、子育てができるような町にしたいと、安心して安全な町にしたいということを目標に本来掲げるべきだと思うんですね。そのために働く場所があり、雇用や子育てができる環境があって、結果として人口が増えていくわけですよ。だから、北九州は何を目標にしてやっていくのかと。人口減少が多い町だからこそ、人口増加を結果としていくんだということによって多くの市民も投票したわけであって、これが新ビジョンの中に一言も入っていない。

今日の所管事務調査は人口増加対策が調査項目に入っていますよね。であるならば、なぜ一言も触れられていないのか。なぜ、さっき言われたようなことが新ビジョンの中に入っていないのか。付け加えるのがあるんだったら総務財政委員会に出さないと、議論にならないんじゃないかと思うんですね。例えば、100万都市の復活は難しいんだったら、新ビジョン策定の期間までに、来年度、人口減少は止めますよと、5年後には3,000人、5,000人増やしますよとか、そういった目標も出すべきじゃないんですか。いかがですか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 今日御説明しましたのは中間取りまとめということで、新ビジョンに掲げる目指す都市像、それを実現するための重点的な戦略の柱というところを御説明させていただきました。新ビジョンの中で人口対策、人口の目標とかを、どういった形で掲げていくかは、今後の検討の中で進めていくところでございますけども、我々の作業として考えているところでは、先ほど申しましたとおり、人口につきましては各政策の結果なので、まずはそれぞれの戦略の柱に掲げる主要指標ですね、どういった指標を掲げるかというところを整理し、その全体的なところで、どういった形で数値目標を掲げるのか、また、どういった記述を新ビジョンの中に盛り込むのかというところは素案の検討で進めていきたいと思っております。本日の中間取りまとめの段階では、そこまでまだ触れられていないところは御了解いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** ビジョンは、元気発進！北九州プランがありますよね。これは平成20年12月から平成32年で、空白がありますよね。今回、17年後の2040年となっていますけど、なぜこういう空白ができたのか。また、なぜ今度17年後というふうな期間を決められているんでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** まず、2040年を目標年に設定した理由について御説明させていただきます。

この理由としましては、先ほど大石委員からも御紹介がありましたように、元気発進！北九州プランにつきましては12年先の目標年としておりました。その前の北九州市ルネッサンス構想が16年先の目標年を設定していたところでございます。こうした過去の計画の目標年を参考にしたのもありますけども、現在生まれてきた子供たちが成人になる年というのもありますし、あと、2040年というのは第2次ベビーブームで生まれた団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者になる年で、少子化による急速な人口減少と高齢者人口がピークに達する2040年問題と国も言われていますけども、そういったことも見据えたところで、今回、新ビジョンの目標年を2040年と設定しているところでございます。

元気発進！北九州プランが令和2年までの計画期間ということで、空白があるのはなぜかということであったんですけども、令和2年というのは目標年でありましたけども、計画期間の最終年という表現はしておりませんでした。我々としては、新型コロナ等で、社会環境が大きく変わっていくところもございましたので、そういった社会情勢も見据えながら、令和2年を迎えた後も、元気発進！北九州プランの最後の仕上げということで進めさせていただいたところでございます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** 今日の調査項目は人口増加対策がテーマになっていますが、書いていないので、それに絡めて質問したいと思うんですけども、資料4に3つの歯車がありますよね。今、課長が言われたのは、稼げるまちが大きくなれば市内総生産、市民所得が増えていく。その結果、ハイクオリティな都市づくり、それが市民の安全・安心な暮らしの確保につながるということですよね。そこら辺をもうちょっと分かりやすく、これがキーポイントなんだということを示すべきじゃないかと思うんだけど。私が思うのは、これまでアベノミクスで、大企業が大きいければ、やがて利益が、甘い汁が滴り落ちて、中小企業や市民所得に落ちてくるんだと。こういう論理でアベノミクスが推進されて、実際には大企業が500兆円の内部利益を上げる一方で、市民は非正規雇用、低賃金を押しつけられていく。企業が大きくなれば、稼げるまちが大きくなれば市民所得、市民が豊かになっていくんだということは、北九州では破綻しているんじゃないかと。これまで、新日鐵をはじめとして大企業は大きくなってきましたよね。結果はそうならないわけですよね。だから、一番大事なことは逆じゃないかと。市民所



得の向上、一人一人が本当に豊かになって暮らしやすいまちづくりが、結果として人口が増えていったりということになっていくと思うので、私はここの歯車が違うんじゃないかと思うんだけど、いかがでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 今、資料4のイメージ図のことでお話がありましたけども、この3つの重点戦略の柱の関連性といったところを少し補足で御説明させていただきます。

人口減少が進み、町のにぎわい等がどんどん減っていく中で、我々としては、一番重要なところとして、若者や女性に魅力のある仕事の創出とか、官民連携によるサービス産業を活性化させ、町のにぎわいを創出していくといった取組に早急に取り組んでいく必要があると認識しております。そうした中で、3つの柱の関連性でいきますと、稼げるまちの実現というところですけども、まずは経済成長が停滞する状態から脱して稼げるまちに変わることが何より必要であると考えております。そのため、企業誘致とかスタートアップによる魅力的な企業を増やしたり、市内企業、中小企業も含めたところでのDXの推進とか、そういった生産性を高めることで、企業の収益、また、そこで働く人々の収入等を増やしていくというところが一つの歯車となっております。また、ハイクオリティな都市づくりというところになりますけども、こうした取組により若者や女性が定着するとともに、そこで生まれた成長の果実を市内での消費につなげていくため、また、住宅や教育などの生活環境の選択の幅を広げるため、人々の多様なニーズに応える高質なサービスが提供される都市のステータスを上げていくと考えております。こうした1つ目、2つ目の取組により、消費活動とかも市内で喚起されることで生まれる果実も含めまして、市民サービスや都市基盤を維持、充実することで、安心して子供を産み育てる社会、また、年齢や障害の有無などにかかわらず誰もが安心して暮らすことができる社会を構築していくということが、3つ目の安全・安心な暮らしの確保の御説明になってくると思います。こうして安心して暮らすことができる場所が整っていくことで、さらに人や企業がまた集まっていくことで町が潤っていくという成長と幸福の好循環を、我々としては新ビジョンの中で目指していきたいと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** 全く答えになっていないんですよ。私が言っているのは、本来、地方自治法に示されている地方自治の本旨は住民福祉の向上でしょ。稼げるまちは、自治体が本来やるべきことじゃないと思うんですよ。本来、自治体がやらなければいけないのは、そこに住んでいる人たちが幸福で、市民所得が上がって、本当に住んでよかったということをするのが公務だと思うんですよ。企業が稼げるまちになったとしても、一人一人に幸福度が享受されなければ、企業は大きくなったとしても、それで賃金だとか、子育てしやすかったりとか、安全だとかにはならないんじゃないか。そこの歯車が逆じゃないかと。本来、自治体がやらなきゃいけないのは市民所得の向上、ここをやるべきじゃないかと指摘をして、答弁は変わらないん

で、ぜひそのことについては考えていただきたいと思います。

次に、2番目の目指す都市像の重点戦略の中で、成果指標の例を書いていますよね。市内総生産の名目とか経済成長率とか雇用創出数とか書いていますけども、数値目標が書いていないんですよね。これまで元気発進！北九州プランのときは、市内総生産を4兆円にしますと。しかし、3兆8,000億円台でしたよね。雇用創出数についても、これまで企業を誘致されて、雇用のカウントをされたことがありますよね。しかし実際には、3年で撤退したり、半分が非正規雇用であったりとかという問題もあるわけですよね。なぜ数値目標を今日提案していないのか。数値目標を提案しなければ具体的な議論にならないじゃないですか。その中身についても踏み込んで、どこまでどうしますかと。なぜ市内総生産を4兆円と掲げたのに、3兆8,000億円台にとどまっているのかとか、人口についても自然動態を食い止めますと言いながら、自然動態については死亡者が増えて出生率が減っていますよね。そういう総括の上に、どこまでどのように持っていくのかということ、きちんと教訓を立てた上で出すべきじゃないかと思うんですけど、いかがですか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 今日お示ししましたのは中間取りまとめの成果指標の例で、当然、素案を出す中では目標数値を出す予定にしております。我々の考えとしましては、先ほど申しましたように、新ビジョンの目標年を2040年としておりますけども、ここで掲げる成果指標の数値目標につきましては、5年スパンぐらいの刻みで掲げてお示ししていきたいと考えております。今日は成果指標の例ということで御説明させていただきましたけども、ここにつきましては、その下にぶら下がってくる重点政策がどういったものかというのをきちんと整理し、それをすることによってどういった結果が出るかというところの目安となる成果指標を掲げていきたいと考えております。今日の中間取りまとめの時点では、あくまでも政策の話で、中身につきまして我々はいったいこの視点で政策を盛り込んでいきたいと考えているという御説明をさせていただいております。成果指標につきましては、ぶら下がる重点政策が固まってくる中でどういった指標を掲げるのか、また、数値目標をどういった数値にするのかといったところは、関係局と協議しながら素案のタイミングでお示しさせていただきたいと考えております。

それと、取組の総括というお話もありましたけども、新ビジョンを検討する上で現状の市の課題等を踏まえることは当然重要だということで、そのため、新ビジョンの検討に本格的に着手しました7月の総務財政委員会で、人口関連だけでなく産業とか町のにぎわい、住環境、財政状況などに関しての各種の統計データをお示しさせていただいたところでございます。こうした統計データを見ましても、例えば産業分野につきましては、市内総生産額が伸び悩んでいるとか、第3次産業がほかの政令市に比べて伸び悩んでいるとか、にぎわいの分野では小売業の事業所、年間商品販売額が減少傾向とか、ホテルや旅館の施設数及び客室数が福岡市は伸びている一方で北九州市は減少傾向といったような、いろいろな課題が見えてきたところでござ

います。こうした様々な分野での結果により、人口につきましても、これまでも総務財政委員会で御報告させていただいてきましたけども、20代、30代の若い世代の転出超過が顕著になっているということもデータでも読み取れる状況になっております。ですから、こういった統計データ、課題等も踏まえまして、今、各局とも協議しながら政策等の検討をしているところでございます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** じゃあ、5年後の目標は出せると。11月下旬には5年後の数値目標が出ると認識してよろしいでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 我々としましては、今そういった形で進めていくように検討しているところでございます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** この取りまとめは2040年までですよ。その2040年までの目標はどうするんですか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 成果指標を5年ごとに設定し、その達成度合いを見ながら、状況によりましてはまた成果指標の見直しとか、そういったところをやっていくことになると思います。5年スパンの刻みで経過を見ていきながら、新ビジョンで掲げる2040年の目指す都市像の実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** 5年ごとに見直して更新していくということですね。

あと、歴史的な総括をずっと要望してたんだけど、5市合併からの産業構造の変化によって、市内企業の問題とか人口の変化とか、そういう歴史的な分析とかは出さないんですか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** これまでの北九州市は、石炭から石油へのエネルギー転換とか、製造業を中心とする第2次産業から第3次産業への構造転換、素材産業のアジアの台頭などの影響を受けたことや、陸路から空路にシフトする時代に適応できなかったといった過去の歴史の中で、企業の流出が相次ぎ、町から活気が失われていったと、いろんところで評されているところでございますけども、そういった歴史を振り返ってというところを、新ビジョンの中でどこまで書き込むかは今検討しているところでございます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 大石委員。

**○委員（大石正信君）** いずれにしても、人口増加対策が今日のテーマになっていますので、そのことはきちんと書いてほしいんですよ。市長の公約でもありましたし、多くの市民の皆さんは100万都市になるんだったらということで1票を投じられていると思うんですよ。雇用だ

とか子育てとかの結果として人口が増えていくということであるならば、そのことをきちんと明記しなきゃいけないと思うし、同時に、人口が減ってきた要因は何なのかという、きちっとした総括、教訓がなければ、こうしたいと言ってもできないわけですからね。そういう総括、教訓の上にきちっとした視点を。先ほど言いましたように、稼げるまちじゃなくて、市民所得の向上、これで結果的に人口が増えていくわけだからですね。そこの視点をしっかりと高めないと、総花的な形であれもやります、これもやりますということになって、結果的に何もできませんでしたとにならないようにしていただきたいということを要望して、終わります。

**○委員長（佐藤栄作君）** ほかにありませんか。井上委員。

**○委員（井上純子君）** 私から新ビジョンにおいて何点か質問させていただきます。

まず、そもそもなんですけれども、新ビジョンの行き着く先のゴールを北極星と以前表現されていたかと思うんですが、この資料の中で北極星は一体何なのか。記者会見でわざわざ北極星プロジェクトとまで銘打たれていたんですけれども、この資料において北極星は一体何なのか、どういうふうに関今後北極星を表現していくのか教えてください。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 新ビジョンで目指す方向性、北極星について御質問がありました。

資料1の2ページ目に目指す都市像を書いております。武内市長も北極星という言葉を使われておりましたけども、行政だけではなく市民の皆様や企業の皆様と一緒に向かっていく方向性ということで、そういった旗印に北極星という言葉が市長は使われたと認識しております。そうした目指す方向性が、まさに新ビジョンで掲げる目指す都市像と考えているところでございますけども、市民目線でいきますと、人口減少時代においても町の成長と市民の幸福の好循環を実現して、市民のウェルビーイングが充足される町というところが、目指す都市像において大事な視点だと考えております。さらにプラスアルファではありますけども、そうしたロールモデルを世界にも発信していきながら、今後、人口減少とかこういった社会課題に直面する日本やアジアに道筋を示していくことで、これまでも公害克服の経験の中で環境とかそういったところで世界に対する貢献等をやってきたところがございますけども、引き続き北九州市としてはそういった形で世界にも貢献していくということも目指す都市の視点として考えているところでございます。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** 井上委員。

**○委員（井上純子君）** 今、説明いただいたように、行政も市民も企業も1つのゴールに向かって進んでいく、これが北極星というのであれば、今だからと説明した目指す都市像だけでなく、1つしっかりとまとめる表現があるほうが北極星と言えるのではないのかと、そこは指摘させていただきます。そこは見せ方として、都市像を市民にどう本当に伝えていくのか。北極星としてゴールを共有するのであれば、もうちょっと分かりやすく明確に端的に伝える表現も、新ビジョン策定に向けて別につくったほうがいいのではないのか、これは要望いたします。

追加で質問いたします。今の説明の中に目指す都市像について何度も触れられているんですけど、この4つのうちの3つに世界に貢献すると入れられています。本市の自治基本条例の目的においても、地方自治の本旨にのっとり、市民の意思に基づく自立した市政運営を確立すること及び市民が安心して暮らすことができる地域社会を実現することと明記されているんですけども、我々、北九州市の市政運営というのは市民の税金を預かって行うということと考えると、市政運営、ビジョンの行き着く先の主役は市民でなければいけないと思っています。世界に貢献で最後締めていくのか。世界に貢献することが市民生活にとって何がプラスなのか教えてください。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** まず、目指す都市像は今の表現では少し長くて、なかなか市民の方に分かりにくいというところは確かにおっしゃるとおりです。今回は、今の考え方ということで少し羅列して書いているところがございますけども、素案の策定に向けては、市民の皆様に分かりやすいキーワードできちんと表現できるように検討しているところがございます。

市政運営で、世界に貢献するというのが市民にどう直結するかという御質問がございました。先ほど、市民目線での目指す都市像を御説明したところでありますけども、市民の目線からいきますと、北九州市に住んでいる市民の皆様が町の成長と幸福の好循環を体感することが非常に重要になってくると考えております。ですから、市民の皆様にとってはこういったところが目指す都市像の考え方になると御理解いただければと思います。ただ、その次の、最終的なゴールというわけではないんですけども、そうした道筋を日本全体とか海外に示していくことにより、北九州市の取組が高く評価され、日本とか世界から人や企業が集まってくるといった好循環につながることもなりますので、我々としましては、北九州市内でとどまるということではなくて、これから新ビジョンでやっていく取組を対外的にも発信していきながら、日本とか世界の発展にも貢献していくという考え方も取り入れたいと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 井上委員。

**○委員（井上純子君）** 今、これだけの文字数を使って説明されても、分かりづらかったわけなんですよね。なぜこの言葉を気にするのかというと、武内市長は市長選において、例えば市民の税金を預かった市政運営で世界に貢献しますなんて一言も言っていないんですよね。言葉の使い方で全く違う印象になると思っています。市政運営の行き着く先は、やはり市民生活がどうであるか、住みよい町とか市民の幸福度だったりであるべきで、世界に貢献する、貢献という言葉がよくないと思っています。世界に評価されて企業誘致が進むとか経済効果があるとか、それがおのずと市民に還元されるとか、そういうサイクルでないといけない。前後が間違っていると思います。市民は世界に貢献したくて生活しているわけではないと思うんです。それを前面に出すと、市民としてはなぜこの市長を選んだか不安に感じると思います。住民自治、

地方自治の基本的な考え方からすると、実際はそういうサイクルとして市民生活に還元される考えであるといっても、この文章では、最終的に貢献するという締め方で終わると勘違いされてしまうと思います。表現としては不適切であると思いますので、ここは改善を要望します。

次に行きます。新ビジョンにおける人口対策について、これは大石委員も言われていたが、私もそのとおりだと思います。人口は各施策の結果で、これについては私もそのとおりだと思うんですけども、ただ、市長選におきまして、人口減少を仕方ないと受け止めるのではなく、人口減少を問題視したことを考えれば、何を人口減少の原因と捉え、それに対するアクションがおのずと出てくるべきだと思います。何の分析も戦略もなく、新ビジョン策定のためのデータ分析を含め、今、専門業者に2,500万円を支払う業務を発注している。こういったことを考えたときに、業者に何の仕事させているのか気になるんですけども、教えてください。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 新ビジョン策定支援業務の委託業者にこういった仕事をお願いしているかというところがございますけども、データ分析につきましては、これまで7月にもお示ししましたデータとかも踏まえて、それ以外に各局からの様々なデータ等も取り集めております。こういったところを一緒に分析していきながら、足りないデータがありましたらお願いして今作業を進めているところがございます。それ以外にも、市民意見聴取のところ、夏にありましたミライ・トークの運営とかもありますけども、現在、若者とか働いている女性とか属性別の意見交換、有識者のインタビューとか、そういったところの市民意見聴取をやっておりますので、一緒にインタビューとかにも動いていただきながら、出てきた意見の取りまとめとか、そういったことも作業としてお願いしているところがございます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 井上委員。

**○委員（井上純子君）** 私としては、人口増加対策で、人口減少を問題視した以上は、人口減少に対してどうアプローチするか、明確に示していかなければいけないと思っています。北橋市政においても、人口についてははっきりと女性、若者をターゲットに社会動態数をプラスにすると言明されておりました。その前市政の流れを否定したのであれば、もっと踏み込む必要があると思うんですね。実際に重点戦略の成果指標の例を見ても、人口だったり社会動態数、例えば出生数とかがない。ぼかしていますけれど、ここを外す意味が理解できないんですが、人口や社会動態数、出生数など人口に関わる指標は入れていかないのでしょうか。教えてください。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 先ほど大石委員の答弁でも御説明しましたけども、今後、素案の中に、人口対策、人口の目標についてどう入れていくか検討しているところがございます。今回、成果指標を各柱ごとに並べてお示ししましたけども、先ほどから申し上げていますように、この3つの戦略に全体的に取り組んでいく中で、人口対策を進めていきたいと考えておりますので、それぞれの柱の中での人口に関する指標というのはなかなかないと思っております。もし絡める

としたら、別のところで前段として示すとか、そういった工夫が要ると考えておりますので、今回はこういった整理をしているところでございます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 井上委員。

**○委員（井上純子君）** ありがとうございます。もう一点質問させてください。

資料3に参考として、これまでの主な意見まとめと書いてあります。これは、ミライ・トークや意見交換会など、これまで拾ってきた市民の声の主なものを抽出しているようなんですけども、こういった会だといろんな声が出てくると思うんですが、今までの意見の拾い方は、漠然と意見を拾って取り留めもない時間を過ごしていたなと受け止めているんですけど、主など表現し、抽出した基準を教えてください。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** そのような場面でかなり多くの御意見が集まっておりますので、全体的なところでは市のホームページで公表していくことを順次やっているところでございます。今回主な意見として整理したところにつきましては、新ビジョンを検討する上で出てきた意見の中で、今後行政としましても強めていかないといけないという判断の中で参考とさせていただいた意見をピックアップさせていただいたところです。これを基に、資料1で掲げた施策等の考え方を整理したところでございます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 井上委員。

**○委員（井上純子君）** ありがとうございます。つまり、主な、と表現したこの意見は参考にしていきたい意見を拾って、今後反映していくということによろしいでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 今もいろんな場面で市民意見聴取を行っておりますので、今後また参考とすべき意見が出てくるとは思いますけども、そうした中で参考としながら新ビジョンを固めていきたいと思っております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 井上委員。

**○委員（井上純子君）** 進みたいビジョンがあって、参考にすべき意見というのは何でしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 北九州市が今抱えている様々な課題の解決に向けて、我々が取り組んでいかないといけないということで、参考にする意見と御認識いただければと思います。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 井上委員。

**○委員（井上純子君）** ありがとうございます。課題があっても、それに対する意見というのは様々なので、どこを選ぶのか、市民も参加すればするほど、自分の意見がどう反映されたかというのは気になってしまうので、こういった質問をさせていただきました。課題にコミットした政策になるのであれば、しっかり反映させていただきたいと思っております。要望です。

最後にまとめて要望させていただきます。新ビジョンがいいものとなるために要望したいと思うんですけども、重ねてのところもあります。まず、指標に今後人口のことを触れていくということなので、最終的には人口、社会動態、出生数は入れていただきたいということを要望します。重ねて、重点戦略にひもづく各施策が全て住民に還元される、好循環していくサイクルを示していただきたいと思います。そのゴール、目指すべき都市像が、今のままだと世界に貢献するで終わってしまっている。これはすごく不適切だと思いますので、サイクルとして循環するというを示して、市民に納得される新ビジョンであってほしいと要望して、終わります。

**○委員長（佐藤栄作君）** ほかに。篠原委員。

**○委員（篠原研治君）** 日本維新の会の篠原です。先ほど井上委員が言っていた内容ともかぶるんですけども、私も、世界に貢献する、アジアに貢献するという言葉についてはよく分からないなど。多くの市民がアジアに貢献したいとは思っていないと思うんですよね。それを求めている人っていうのはそんなになくて、貢献したいのは市長だけじゃないかなと思うんです。先ほど井上委員が言っていたように、貢献することによって市民の生活がどう変わってくるか、どう幸せになっていくか。その市民の結果を書くことがこのビジョンであって、貢献することがゴールになっていくと、誰がどうしたいのかというのは勝手な臆測ですけども、市長がアジアに貢献したいだけであって、それは市民のためではなくて、自分が市長として評価されたいからこそ、その思いがここに出てきているんじゃないかなと私は考えてしまうんです。市民のことを考えるのであれば、絶対にここはアジアに貢献、世界に貢献という言葉で終わるはずがないんですよね。だから、そこの視点、誰のために市長になっているのかというところを外してほしくないと思います。本当に市民の幸せを願うのであれば、目指す都市像がここで終わるはずがないんです。恐らく、貢献することで自分が認められたいっていうような思いが強いからこそ、こういうふうになってしまうんじゃないかなと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 世界への貢献というのは、市長の思いが強いのではないかと御指摘がありましたけども、北九州市はこれまでも公害を克服した経験を持ち、アジア等を中心とした環境分野などの様々な国際協力、そういったところを実施してきた都市でございます。新ビジョンの検討会議の委員からも、あとアドバイザーからも意見がありましたけども、北九州市がこれまで歩んできた歴史というか、こうした強みというのは今後も大切にしていきたいと、いろんな方から御意見をいただいているところでございます。そうした意見も踏まえまして、我々としては今こういった考え方を示しているところでございますけども、貢献が市民に直接つながらないという御指摘もありますので、この表現につきましては今後こういった形がいいのか検討してまいりたいと思います。以上でございます。



**○委員長（佐藤栄作君）** 篠原委員。

**○委員（篠原研治君）** ありがとうございます。重ねて言わせていただくと、世界に貢献したいわけではなくて、それを市長に求めているわけでもなくて、ただ、世界に貢献するなど言っているわけでもなくて、貢献することによって僕たちがどんな生活ができるのか、市民はそこしか市長に求めているので。だからこそ、選挙公約で掲げた行政コストを抑えるために、身を切る改革を掲げたんで、それをやってほしいし、送迎ステーションをやるって言ったんだから送迎ステーションやってほしいし、掲げたことを粛々とやってほしいわけですよ。そんな中で世界に貢献するなんて市民に関係ないことを一番に掲げられたって、それは市長の自己顕示欲の発散にしかないわけで、そんなの僕たちに関係ないわけですから、誰が主役なのかというところをしっかりと意識して、もう一回考え直していただけたらなと思います。ただ、これは言葉だけ変えたって意味がないので、しっかり実行を伴ってほしいなと思うんですが、これはビジョンの話なんで、ビジョンをしっかりと、主役は誰なのかと井上委員も言っていましたけど、それを外さないようにしていただきたいなと思います。

それともう一つが、元気発進！北九州プランは北橋市政のときにつくったと思うんですけども、北橋市政のときに掲げていたこと、やってきたことと、今回の、今は中間取りまとめですけど、この内容について、武内市政だからこそこれが違うんだという違いを教えていただきたいと思います。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 今日お示ししたそれぞれのキーワードといたしますか、政策の考え方というのは、あくまでまだ、こういった視点で今後新ビジョンに盛り込んでいきたいと考えているところでございます。素案をつくっていく中でももう少し具体的な政策はお示ししていきたいと思っておりますけども、北橋市政がこれまでやってきたところで、継承すべきところはしていかないといけないと思いますし、また、現在新たな社会課題とか、社会環境が大きく変わっていく中で、新たに取り組んでいくべき、また強めていくべきところもございますので、そうしたところにつきましては新ビジョンの素案の中でももう少し具体的にお示ししていければと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 篠原委員。

**○委員（篠原研治君）** ありがとうございます。この中間取りまとめを見ていくと、稼げるまちというフレーズとハイクオリティーな都市づくりという、ここが武内市長がずっと言っていたフレーズかなと、ワードかなというのは伝わるんですけども、それ以降はそんなに代わり映えがしないというか。この内容のどこに武内市長ならではが。だって、選挙では北橋市政をある種批判して、今までの失われた16年は駄目なんだって否定されて当選したわけですから、武内市政は北橋市政とは違うよというところがどこか出てこないといけないと思うんですが、ハイクオリティーな都市づくりと稼げるまちというワードだけ、らしさが出ているかなと。でも、

それ以外の細かいところを見ていくと、そんなに代わり映えしないんじゃないかなと思っていますが、どの辺に武内市政の色というのが出てきているんでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 今、委員がおっしゃられましたように、稼げるまちの実現、ハイクオリティーな都市づくり、この1番目、2番目の柱が武内市長のカラーが出てるところと我々も認識しております。その下にぶら下がって書いております、稼げるまちでいきましたら産業関係とかインフラ関係とか、そういったところを並べておりますけども、先ほども御答弁したとおり、ここにつきましてはそれぞれの政策に沿って内容の記述の作業を進めているところでございますので、そうしたところで新たな武内市長のカラーも出てくると考えております。

3つ目の市民の安全・安心な暮らしの確保、これにつきましては、市政運営を行うに当たり、先ほども市民目線が重要であるという各委員からのお話がありましたけども、市長が誰に代わろうと、トップが誰に代わろうと、市民の安全・安心な暮らしの確保というのは市政運営の中ではやっていかないといけないところでございます。ここにつきましてはトップのカラーというのはなかなか出てこないんじゃないかという御意見もあるかもしれませんが、この視点というのは重要であると考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 篠原委員。

**○委員（篠原研治君）** ありがとうございます。安全・安心のところは市長が誰になろうと守っていかないといけないというところは分かるんですが、ハイクオリティーな都市づくりと稼げるまちというところも、僕の場合としては、そんなに北橋市政と変わっていないんじゃないかと。市長が代わったところで内容がそんなに変わっていないんじゃないかという感覚を持っているんですよね。市長の記者会見を見たり、今までの議会での発言だったりとかそういうのを見ていく中で、明確な数値目標だったり、人口100万人を目指すと言って当選したのに、じゃあいつまでなのかとか、どうしていくのかがなかなか具体的に出てこない。実はもう自分が掲げたことをやろうとしていないんじゃないかというような感じも雰囲気として伝わってくると、そういうことを僕も市民から言われるんです。だから、市民もだんだん武内市政に不信感というか、武内市政を応援してきた人たちも、武内さんは本当に市政に向き合っているんですかと、掲げたことを粛々とやっているんですかとという疑問が僕のところにも届いてきていて。だからこそ色を出してほしいわけですよ、俺はこれをやるんだということをですね。ただ、それがなかなか見えづらいなというところが、本当にやる気があるのかなという不信感につながっているので、そういう色を出していただきたいと思います。ハイクオリティーというワードと稼げるまちという、このフレーズだけ武内さんだなど。それ以外は北橋市政とそんなに変わらないなど。市長が代わっても変わっていないんじゃないかという感覚があるんですけど、その辺はいかがですか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 武内市政の具体的な姿を見せていくというところが、まさに今回の新ビジョン、新しい武内市政の下の市の基本構想、基本計画になりますので、今後、素案の中で新たな考え方とか取組とか、そういったところを盛り込んでいくということで今作業を進めているところでございます。令和5年度予算につきましては、就任されてからすぐの予算でありましたので、武内市政のカラーを出した予算ではなかったと思いますけども、新ビジョンの中で、各局と今協議しながら、どういった施策を盛り込んでいくかというところを検討しておりますので、新たなカラーで市民の皆様に新しい市政の姿をお示しできればと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 篠原委員。

**○委員（篠原研治君）** ありがとうございます。市長が代わって急にカラーを出すというのは難しいと思うんですが、私のところに届く声とか私が個人的に思っていることでいうと、武内市政への期待が大きいということだと思うんですね。市長が代わったことによって何が変わるんだってみんな期待している。市長が代わったからといって1年、2年で町ががらっと変わるのも思っていないですけど、現段階で肌感覚だけで申しますと、市民や僕の期待感を武内市政が超えてきていないというのが現状なんですね。姿勢だったり発言だったり。だから、その辺を新ビジョンで表していただきたいなと思っているので、しっかり武内カラーというのを盛り込んでいただきたいなと思います。要望で終わります。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** 先ほどからずっと議論を聞いていたわけですが、この新ビジョンとは何者なんでしょうか。そして、何のためにこれをつくっているんでしょうか。そこをまず聞きたいと思います。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 新ビジョンは何なのかという御質問ですけども、現在の元気発進！北九州プランに代わる新しい北九州市の基本構想、基本計画と位置づけております。

何のために策定するのかというところでございますけども、先ほどから人口も含めたお話もいただいておりますけども、人口減少とか町の活性化が喪失されているとか、そういった市が今抱えている様々な課題に対しまして、新たな取組を含めたところでの市の方向性を示すビジョンと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** ということは、将来の北九州の向かうべき道筋、そしてゴールをここで書こうとしているという認識でいいかなと思っております。それでよろしいですか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 目標年を2040年と御説明していますが、そこに向け、北九州市が向かう姿というところ、行政を含めて市民の皆さんと一緒に取り組んでいく方向性を示していきたいと考え

ております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** それでは、このペーパーを今日プリントアウトしてきたんですけども、新ビジョン策定過程の報告、中間取りまとめということではありますが、このペーパーには市長の意思とか気持ちというのは入っているのでしょうか。これを見ますと、括弧で、有識者や市民などの意見による現時点の視点についてということなんです。この中間取りまとめは市民とか有識者の意見の取りまとめだけなのか、それとも武内市長の意思、これが入っているかどうかを聞きたいと思います。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 少し分かりにくい表現、資料になっておりますけども、これまで様々な場面で出されてきました市民や有識者の皆様からの意見、これを当然、武内市長とも共有していきながら、ビジョンにどういったことを盛り込んでいくか協議しながら検討しているところでございます。ですから、今回お示しした、新ビジョンにおける目指す都市像や重点戦略、それにぶら下がる主要な政策の柱につきましては、今武内市長と協議しながら進めている視点と御認識いただければと思います。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** それでは、きちっと武内市長もこの中間報告を理解して、それに関わっているという認識を持ちました。

ここからは質問なんですけども、新ビジョンの目指す都市像についてということで、黒四角の4番目の人口減少時代においてもという、この表現なんです。人口減少時代においても町の成長と市民の幸福の好循環を実現しとあるわけですが、この文章を素直に読むと、自分は国語能力がないと理解してほしいんですけど、人口が減ることを容認しているような書きぶりだなと思うんですけども、その辺の認識はどうでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 新ビジョンの中で、人口対策というのは重要な切り口だと考えております。人口減少時代においてもという表現でございますけども、今、人口減少が北九州市も含めてどんどん進んでいる現状としましては、やはり自然動態、高齢化に伴います死亡数の大幅な増加と出生数の減少がございますので、自然動態の改善というのは中長期的な視点での取組になると思います。すぐに人口減少が止まるとか増加するとかというのは、現状としては厳しいところがあると思いますけども、人口対策ということで、今進んでいる人口減少をいかに止めていくかという取組を進めていくところを考えております。この人口減少時代においてもという表現が容認しているようじゃないかという御質問だったと思うんですけども、我々としては容認しているつもりはなくて、人口減少が進む中で取り組んでいきたいという思いで少し書かせていただいたところなので、この表現につきましてはまた素案の中でどういった

整理をしていくか、きちんと整理していきたいと思います。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** 人口問題というのは本当に大切なことだと考えています。我々は、選挙中、失われた16年のせいで人口が減ったかのような趣旨の発言をされているんです。そして、我々議会も何も対策をしなかったというような表現をされています。そうであるならば、この新ビジョンに、人口問題は最終目標として入らなければならないんじゃないかなと思っています。

私が実は期待していたのは、目指す都市像。先ほど課長がおっしゃったように、どんな時代においてもこの北九州は成長していく、そして人口が増える町を目指しますと。そのようなことを期待してたんですけども、書きぶりを見ると、人口減少を容認しているんじゃないのかなという気持ちがちょっとしました。そこだけは指摘をしておきたいと思います。

そして、先ほどから市民目線とか、市民のためにこの新ビジョンをつくっているんだとか、いろんな話が出てきて、その中で、世界の発展に貢献する町は市民のためにならない、市民はそんなものを望んでいないという発言もございましたが、武内市長がこれをやってくれるんなら私は大賛成です。この北九州市は世界に貢献できる都市でなければならないと確信をしております。これまで行政も議会も、ベトナム等に上下水道の協力をしっかりやってきた。私も議長としてベトナムに行って、本当にベトナムの方々から感謝されました。そして、中国の環境汚染問題、これも北九州が乗り出して行ってしっかりとした協力をしてきた。私もSDGsのバッジをつけています。これは、本当に世界から認められている北九州だと。これは北九州市民のプライドじゃないかなと思っています。例えば、アステック入江が都市鉱山から金の抽出に成功した。これは、アステック入江の職人の方々といいますか、従業員の方々が世界に先駆けて開発した技術です。今、世界の各国がこの技術を欲しいと言って、問合せが来ている。これはまさに、北九州市が末吉市長、北橋市長と環境問題に取り組んだ、環境産業に取り組んだ成果だと思っています。これを北九州市民は知っている。そして、北九州のいろんな企業が海外に出たときに環境の北九州ですねと言われるんです。それだけで信用される。このような都市を行政も、我々議会もつくってきたんだと自負しております。だから、書きぶりはまた考えたほうがいい。世界の発展に貢献する町がどう市民に還元されているかという書きぶりは考えたほうがいいが、私はぜひ武内市長と共にこの政策を実現していきたいと考えています。

そして、稼げるまちについて。これも質問なんですけども、ワンランク上のライフスタイルとはどんなスタイルなのかなど。で、それに対する成果指標は現時点でどんなものになるか、その辺はどう考えられているのでしょうか。

そして、インフラ関係というところで、企業誘致に向けた産業用地の創出して書いているんですけども、今、北九州には、環境産業にしる半導体にしる、そして物流にしる、出てきたいという企業がたくさんあります。しかし、土地がない。これをどのようにして、所管が違うか

ら答えられないかも知れないんだけど、これまでの経緯の中でどんなことを考えられているのか、聞きたいと思います。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** まず、稼げるまちで掲げておりましたワンランク上のライフスタイルというところでございます。これは2番目のハイクオリティーのところとも少しかかってくるんですけども、稼げる仕事とかそういったことができることによって、若者とか女性が定着したりとか、外から人が来たりとか、多様な人材が集まってくる中で、そこで稼いだお金を北九州市内で消費してもらうというところが非常に重要だと考えております。その辺を行っていくに当たりましては、データ等で見ましても第3次産業とかがどんどん縮小していっている中で、サービス産業とかそういったところの数も増やしていく必要もありますし、様々なニーズに応じていくためにはサービスの質というところで、高質なサービスを提供する商業とかも必要になってくる。そういったことを体現できるスタイルというところで、ワンランク上でのライフスタイルと書いておりますけども、ここも素案に向けてもう少し市民の皆様に分かりやすいような表現も含めて考えてまいりたいと考えております。

インフラ関係の産業用地の創出のところでございますけども、戸町委員がおっしゃられたように、企業誘致を進めていくに当たって今一番課題というかネックになっているのが、産業用地が確保できないというところが大きな要因と我々も認識しております。いろんな意見の中でも出てきておりますし、市としてもここは重要な視点だと考えておりますので、建築都市局と議論しながら、新ビジョンの中にどう落とし込んでいくか整理しているところでございます。具体的な産業用地の確保は、認識していないので、申し訳ございません。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画調整局長。

**○企画調整局長** 先ほど戸町委員から、世界に貢献するということの中で応援のメッセージをいただきました。まさしくSDGs、環境のところ、今までの北九州市の歴史、これを考えたときに、八幡製鉄所ができて、これが日本の産業革命ということで日本を大きく動かす要因になりました。これが公害を起こし、公害を克服し、また、産業構造の転換を余儀なくされ、環境問題を解決するゼロカーボンであるとか風力、水素、こういったものへの産業転換と、日本の中でいろんな転換期があって、これが日本、また世界に通用する歴史なんじゃないかなと認識しております。

それから、企業誘致をする中で、バックアップ首都を今進めております。この中で、バックアップ機能を持つてくるということがどういった貢献になるかということで、これはすごく企業から評価をいただいています、そこまで考えていただいているんだなど。今から日本がどういう状況に陥るか、大きな災害があって、1つの場所では企業が成り立っていないということを考えていただいて、企業誘致をしていただいているというのは、すごく会社にとって大きいというか、そういうことを考えてくれているんだねという発言もいただいております。そ

ういった中で、日本全体をけん引していく、引っ張っていくというところ、それから、ひいてはそれが世界にもつながっていくという意味では、先ほどの補足になりますけれど、そういったことも考えつつ、この言葉が入っているということも御理解いただけるとありがたいなと思います。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** ありがとうございます。局長が答弁した後に話をするのがなかなか難しくなっちゃったんですけども、もう一つ、ハイクオリティーなまちの項なんですけど、町のステータス、格を上げることで、この格という言葉が私にとってあまりいいイメージがないなと。格が違うんだよとかという、そういう感じに受け止められるんですけども、その点についてはどうでしょうかということと、ハイクオリティーなまちのモデルタウンというか、考えている代表的な町、もしこういう町がモデルなんですよというのがあったら聞きたいと思うんですけども。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 今おっしゃられたとおり、格という言葉なんですけど、我々もこれを非常に今悩んでおります。中間取りまとめなので、今考えている言葉ということで使わせてはいただきましたけども、格っていうと少し語弊があるというか、いろいろ捉え方があると我々も考えておりました、ここの表現は、どういった言葉がいいのか今検討しているところでございます。

あと、ハイクオリティーという言葉も、今までずっと使ってきてはいるんですけども、人によっては捉えるイメージが変わってくると認識しております、ここの表現もどういった形がいいのか考えているところでございます。ハイクオリティーな都市として参考とすべき都市というところでは、我々としましては、ここに書いているような、今までとは違うサービスとかそういったところを体感できる町にしていきたいと考えているところでございます。それぞれのサービス、いろいろな分野がありますので、ここの都市を参考にするのは難しいところがあるんですけども、今後また海外も含めて参考とすべき都市がありましたら、新ビジョンができた後になるかもしれませんが、参考にして取組等を検討してまいりたいと思います。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** 最後になりますが、武内市長は英語が多分得意なんだろうなと思うんですけど、横文字が結構あって、用語集を作ったほうがいいのではないかなと思います。これは要望です。終わります。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上幸一委員。

**○委員（村上幸一君）** 要望と意見をさせてもらうんですけども、委員の皆さんの意見を聞いて、なるほどなと思うことがたくさんありました。その中でまず、所管事務調査、人口増加対策ということで今日の委員会があっているんですけども、その中で新ビジョンのことがずっと話し

れて、総合的に施策を進めることで人口増につなげていくということだったんですが、これはどっちかというところと執行部と委員長にもお願いしたいと思っているんですけども、人口増加についての所管事務調査ですから、そこにもっと特化したような内容で委員会をやっていくことも必要じゃないのかなと思うし、そういった資料も執行部から出していただくと。これは、あくまでも新ビジョンについての資料だけしかないわけですよ。人口増加対策はそれだけではないと僕は思うので。答弁は要りません。意見だけにさせてもらえればと思っております。

それと、篠原委員も言われたけど、僕も新ビジョンの今の取りまとめを見ていて、2月までの北橋市政の時代のものと今後の新しい武内市長の下での違いというのが分かると本当にいいなと思っています。というのが、掲げたものの中に、人口増とか稼げるまちとか借金を減らしていくとか、そういったことがあるわけで、僕の勉強不足が一番なんですけども、ちょっと分かりにくいので、その辺はしっかりやっていかないと、あまり変わらないなという気がしてならないものですから。まだ時間はありますので、ぜひ頑張っていたいただきたいという意見で終わりたいと思います。

**○委員長（佐藤栄作君）** 岡本委員。

**○委員（岡本義之君）** 目指す都市像の実現に向けた重点戦略に関して、まず、稼げるまちの実現についてですが、人口減少の時代に入って、どの自治体も競争してとにかく人を確保しようという動きがある中で、どこも一生懸命頑張っていると思うわけですね。稼げるまちの実現ということで、市民の皆さんがある意味、実感できるというか、これなんだなと思えるような、ここにいろいろ産業関係とかインフラとか人材、これを見ても、多分どこもやっているんじゃないかなと。うち以上にやっているところもあるんじゃないかな。うちの本当の強みというのを表に出して、これだとほかの自治体をリードしていけるようなものというのをしっかりアピールしていかなくちゃいけないんじゃないかなと。先ほど局長がバックアップ機能という話をされました。ここは地震が少ないということもあって、今後の災害とかを考えたときに、いざというときに、ほかと比べて北九州は有利じゃないかと。僕はそれはそうだなと思うんです。そういった市民がこれが稼げるまちなんだなと思えるものを出していかなくちゃいけないんじゃないかなと。よその自治体に比べても強みがある、本市だからこそという、それをぜひうたっていたいただきたいと思います。何かあれば答えていただければ。

それと、3点目に市民の安全・安心な暮らしの確保について、これは3番目に上がっていますので聞かせてもらいますけども、北九州市は平成26年に安全・安心条例をつくってきました。それに伴う行動計画も、ちょうど令和6年度で第2次行動計画が終わります。所管が違うかもしれないですが、大きな話なんで。このビジョンにも3番目に大きく上げている中で、今後、新たな条例の見直しとか行動計画もこれに沿った形でしっかり検討されていくのか教えていただきたいと思います。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。



**○企画課長** まず、1点目の稼げるまちについて、北九州市の特色を出していくべきということですが、委員がおっしゃいますように、北九州市のポテンシャルとか強みとか、あと、先ほど戸町委員からも北九州市民のプライドという言葉もありましたけども、新ビジョンでは本冊の中での書き込みを今検討して進めているところでございます。そうした強みとかプライドとか、そういったところを市民の皆様に見ていただいた上で、それを基に、どういった施策をやっていくんだというところがつながっていくような内容にしていくように考えていきたいと思っております。

それと、安全・安心の柱に関連して、安全・安心条例と行動計画のお話ございましたけども、すみません、所管が異なりますので、具体的なところは御説明しにくいところがあるんですが、新ビジョンで掲げたところ、絡んでくるところで見直していくところが出てきましたら、関係部署と話をしながら進めていくことになると思っております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 岡本委員。

**○委員（岡本義之君）** 先日、テレビでプラタモリを見まして、北九州の5市合併とか筑前や豊前の関係がどうやったかみたいな話で、こんなふうに進んでいったんだと改めて復習させてもらったんですけど、なかなかいい出来だったなと思いました。北九州はある意味、国策であったり財閥であったり、日本が経済成長しようという、すごいエネルギーの中でできていった部分があるのではないかなと。ただ、今後は地方自治体がいかに我が町のことを考えて、ある程度自分たちの力量で改革なり変革をやっていかなくちゃいけないという中で、知恵も必要ですし、市民からいろんな意見をしっかり集めていって北九州らしい変革をしていかなくちゃいけないと思うんで、今大変なことをやっていると思います。本当にいいものになるように頑張っていたいただきたいと思っています。

例えば、北九州は水素にも力を入れています。世界の電気自動車の流れの中で水素自動車という話でトヨタは頑張っていますけど、北九州の町の中にいろんな自動車の整備会社がありますが、電気になると仕事がだんだんなくなるという将来に対する不安もたくさんあります。北九州は世界一、水素自動車が走る町だとか、そんなことも目指していいんじゃないかなと。そうするとまたトヨタからも北九州は頑張ってくれるなという流れができるかもしれませんし、いろいろ考えて頑張っていたきたいということを要望して、終わりたいと思います。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** 成重委員。

**○委員（成重正文君）** 関連しますけど、稼げるまちと人口増でありますけど、今テレビでも移住とか、いろいろやっていて、どこも競争だと思っています。そうすると、91万人の市民の皆さんの考え方を、北九州がいい町だっていう、この考えの方々を増やすしかないかなと思っています。ここにずっと住んで、北九州はいい町だよと言う方と、そうじゃないという方がいらっしゃるしまして、このギャップ、差をどうにか埋めて、私が思うには3世代で楽しく暮らせる

まちづくりというか、おじいちゃん、おばあちゃんたちが北九州はいいからということで、今の小学生とか中学生に北九州に残ってという形を教育委員会側からつくって、その気持ちをくっつけていただきたい。それから、以前も言いましたけど、大学でせっかく北九州に来た方が、北九州はよかったねと、そのまま残る方をどれだけ増やすかというところが人口増加につながるんじゃないかなと思っています。

それともう一つ、この間ある方と話したときに、北九州に初めて来ましたという方が、岡本委員が言われたように、工業都市というイメージが今でもあります。その方がドバイにいたときに、何もない砂漠で果物とか野菜をばんばん作っています。北九州のイメージも、工業の町の中で野菜を作っているとか果物を作っているというイメージがもっともっと発信できるような、そういうことをやっているよと、北九州は面白い町だなという、そういうことをできないでしょうかという意見もありました。だから、流山は子育てしやすい町とか、北九州はこういう町だというのを何か一個特化して。長期ビジョンもありますけども、短期でアピールできるような北九州の町であればいいかなと思っていますので、北九州は楽しい町だ、いい町だというのを、アピールできるような方々を増やしていただいて。さっきブラタモリの話もありましたけども、どんどん北九州のいいところをアピールしていただければと思います。

もう一つ、先週、堀江貴文さんがクロスエフエムの会長になるっていうときに、12月24日に24時間アピールをしていくと言ったんで、そういう方々に北九州のいいところをどんどんアピールして全国に発信していただければと思っていますので、その辺もよろしく願います。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** ほかに。村上さとこ委員。

**○委員（村上さとこ君）** よろしく願いいたします。まず、このプランを見せていただきまして、8月23日と同じように、資料4、新ビジョンにおける目指す町の視点、イメージ図というのをカラー刷りで出していただきました。これが将来の北九州市の目指す都市像であるということでお示しいただいております。その大きな目標は、北九州市が実現する新たな社会経済システム、この成長モデルを実現していこうということがまちづくりの目標なのかなと見えます。そして、そこの3本の柱が、稼げるまちの実現、市民の安全・安心な暮らしの確保、ハイクオリティーな都市づくりで、成長と幸福の好循環をつくるというふうに見えるんですね。まちづくりの目標が新たな社会経済システムの構築なのであれば、この経済システムが実現できなかった場合、このビジョン自体が失敗に終わってしまうように捉えられてしまうんですけども、その辺はいかがでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 資料4のイメージ図のお話をいただきました。一番上に、新たな社会経済システム、成熟都市モデルと書いておりますけども、これにつきましては、その下に書いております3つの、稼げるまちの実現、ハイクオリティーな都市づくり、市民の安全・安心な暮らしの確

保、この重点的な取組を連関させていきながら、真ん中の赤字で書いております成長と幸福の好循環を高めていくというところが、目指す都市像の大きな考え方になってくると思っております。ですから、こういった成長と幸福の好循環が進んでいく北九州市の姿が成熟都市モデルという言葉を使っておりますけども、こういったモデルとして対外的に発信していったらということイメージ図としてまとめているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとし委員。

○委員（村上さとし君）そうしましたら、成長と幸福が好循環できなかった場合は、ビジョンが達成できなかったという一つの指標になるわけですか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 我々としては、この3つの重点戦略、それにぶら下がってくる取組を進めていくことで成長と幸福の好循環を達成していくと、新ビジョンとしては考えているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとし委員。

○委員（村上さとし君）このイメージ図もなかなか分かりづらくて、私も何人かの市民の方に見ていただきましたけれども、自分の日常生活、身近な毎日の生活にこれが入ってきたときにどうなのかなというか、ぴんとこないという意見も多くありました。これを自分ごととして捉えられるような表現の仕方も、これから工夫なさるとおっしゃっていましたが、表現の仕方などにも工夫をしていただきたいと思えます。

思い起こせば、北橋市長の元気発進！北九州プランなんですけれども、まず第1にまちづくりの目標というのが一つ明確にばんとありました。まちづくりの目標が、人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまちというのが一つ大目標でありました。その下に、人づくり、暮らしづくり、産業づくり、都市づくりと4つが分岐していたと思うんですね。このような形で見ますと、まちづくりの目標の大前提というのが成長と幸福の好循環ということになるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 元気発進！北九州プランでいきますと、今御紹介がありましたように、人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまちという、まちづくりの目標を掲げております。今回の中間取りまとめでお示ししました資料1の2ページ目の目指す都市像というところが、この考え方が入ってくるころになると思っております。先ほど井上委員からお話がありましたように、今、中間取りまとめの記述につきましては、これまで出てきた意見とかを羅列的に書いたところでありますけども、素案に向けては、まちづくりの目標、目指す都市像のところの記載につきましては、市民の皆様に分かりやすい端的なキーワードを使いながら、また、その下の説明書きとかでわかりやすく表現していきたいと考えております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとし委員。

**○委員（村上さとこ君）** ビジョンには分かりやすく書いていただけるということで、それは期待しております。まず、こういう町でありたいという一つのワードで表すような大目標を市民と共有できるような書きぶりで示していただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

次に、人口増加対策でございます。これは各委員から出ております。各委員から出ているということは、私たちが聞いた市民の方々も同じように、人口増加対策については大変注目しているということでございます。市長が公約に掲げた2つの大きな柱、人口100万都市の復活、稼げるまち、この2本柱を毎回毎回あらゆるシーンでお使いになり、また、初めての議会においても、しっかりと大きな目標、人口100万人都市の復活に挑戦ということと稼げるまちにしていこうということ、これを掲げて、ここに向かって前進をしていく、そういう市政を運営していくということをはっきりおっしゃっているんですね。ということは、人口100万人都市への挑戦という旗印を掲げたと私たちも認識したわけでございます。それがいいか悪いかというのはまた別問題として、市長が旗印を掲げたのであれば、その旗印を下ろすような、下ろすというか、人口100万人に触れないというのは非常に違和感を感じるわけです。

少なくとも、7月13日の北九州アドバイザーの意見交換会で、11人のアドバイザーに配付した事前資料においても、最終ページに、人口100万人都市への挑戦、稼げるまち、これをしっかり進めてまいりますみたいなことが書いてあるんですね。それを前提に話し合ってきたんです。しかし、先ほど御説明にもありましたが、人口問題の研究者にいろいろお話を聞かれたということでもあります。専門家の方がおっしゃるには、様々な施策の取組の結果が人口増につながるという、本当に当たり前なことをおっしゃって、当然みんなもそうだと思っているんですけども、先ほどそういう認識だとおっしゃられました。であるならば、人口100万人都市の復活に対して、いろいろな施策の結果であるので、取りあえず人口100万人都市の復活というのは出さないんだとか、ちょっと目標が大き過ぎましたとか、その辺の市長の説明責任が生じると思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 先ほども御説明しましたので、繰り返しになるかもしれませんが、人口100万都市の復活という市長の考えにつきましては、6月議会の本会議で、市長からも言われていましたけども、日本の近代化、経済成長をけん引してきた、かつての北九州市の勢いを取り戻すべく、市民みんな目指していきたいという思いから掲げてきたとお答えされております。ですから、新ビジョンにつきましてはこういった考え方も当然盛り込みながら進めていかないといけないと思っておりますし、先ほどから御説明しておりますとおり、人口目標とか人口対策とかをどうやって新ビジョンの中に入れていくかというのは、各委員の皆様からも御意見等をいただきましたので、検討していきたいと思ひます。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上さとこ委員。

**○委員（村上さとこ君）** 人口100万人を目指す考え方、当然、人口増に向けて様々な考え方をお示しになるかと思うんですが、100万人都市への復活というこのワードですね、これを入れないと分かりにくいのではないかと思います。私自身は、度々申し上げておりますけれども、日本全体が減少する中で、そして2040年も北九州市の推計人口が80万人そこそこの中で、人口100万都市を2040年に目指すというのは現実性がないと思っております。それよりは、減少していく中でもしっかりと市民生活の向上につなげたりだとか、人とテクノロジーと環境が調和したような、そういった社会像を目指していくべきだと思っております。しかしながら、市長が人口100万都市への復活ということ、稼げるまちという2本柱を掲げて、掲げて、掲げてきて、議会の中でも言って、アドバイザーにも示してということでもありますから、ここについては何らかの説明をしていただきたいと思うんですね。それは市長自身に申し上げることでもありますから、ここではこれ以上は申しませんが、とにかく、みんなからこのような意見が出ているということは、市民はもっと思っているんですよ。100万都市への復活、稼げるまち、そうなんだ、そうなんだと思って、そのキャッチフレーズを何度も何度も聞いて投票に及んだわけですから、説明をしていただきたいと思います。

次に、各論なんですけれども、目指す都市像とハイクオリティな都市づくり、市民の安全・安心な暮らしの確保について伺います。稼げるまちの稼ぎ手の主語は誰なんでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** まず、市内企業、中小企業も含めたところで生産性向上とかで収益を上げていくというところもありますし、新たな仕事の場の創出ということで企業の誘致とかスタートアップとか、そういった新たな企業が生まれることによつての稼げるというところも出てくると思います。そうした中で、そこで働かれていますの方たちの収入が増えていくことで、市民一人一人の稼げるというところにもつながっていくと考えております。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上さとこ委員。

**○委員（村上さとこ君）** まず、これは多くの委員から出ていますけれども、町の一人一人の市民が主役の市政であります。ですので、ここは一人一人の市民の所得が向上するためにこうしますだとか、一人一人の市民の生活が豊かになるためにそうしますだとか、そういった主体を、書きぶりを考えて検討していただきたいと思います。産業関係、インフラ関係、人材育成関係などの重点戦略の案を見ますと、DX、脱炭素、特区の活用、リスキリングもスタートアップもそうですが、国の戦略をそのままなぞったような形ですよ。この中で市のオリジナリティというのはどこにあるのでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** 稼げるまちの実現の柱につきましては、主に産業経済局の所管になってきます。産業経済局も、成長戦略に関する新たなプランの検討を今進めているところでございます。スタートアップとかDXとか国の政策に基づいたところをなぞっているんじゃないかという御意

見だっただと思いますけども、当然、国の方針とかそういったところも踏まえながら北九州市らしさというか、これまでの北九州市の強みとか、先ほど局長からバックアップ首都のお話もありましたけども、そういった北九州市のポテンシャルとか強みを生かしたところでの独自性のある取組を盛り込んでいきたいと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上さとこ委員。

**○委員（村上さとこ君）** そもそも稼げるまちというのが、2018年の地方創生総合戦略、まち・ひと・しごとの創生総合戦略、国の中での重点項目でありましたので、数年前に戻ったかなという印象を持っている一本の柱でありました。ハイクオリティーなまちづくりは、これも戸野委員がおっしゃっていたんですけれども、英語が入っていて分かりにくい。これを見ると私、ありふれた分譲マンション販売のチラシを思い出すんですね。ハイクオリティーな、高品質なサービスでコンシェルジュもおりましてみたいな、そういった感じになって、心に入らないというか、実感が伴わないんですね。書きぶりというのは非常に大切でありますので、考えていただきたいと思います。

また、成果指標に対しても、市内の消費額とか商業地の価格とかの指標はありますけれども、市民の幸福度の実感につながっていくような、住みやすさを実感できるような指標というのが必要かと思っておりますので、市民が実感できる指標を何か考えていただきたいと思っております。これは要望にいたします。

3番目の市民の安全・安心な暮らしの確保なんですけれども、これは当然やらなくてはいけないことではありますが、これから2040年になると65歳以上の高齢者もまたぐっと増えるわけがあります。そこで、今まで北九州市が健康づくりに力を入れていて、これからますます健康づくりに力を入れなくちゃいけないので、市民の安全・安心、健康な暮らしの確保とあって、一つ健康というキーワードを入れてほしいというのは、これ要望です。今でも、市民の2人に1人が50歳以上の高齢者だと思っております。ますますそれが増えていくことで、2040年になったら健康でいること自体が宝のようなものになってくると思っておりますので、一人一人のそれこそ生活の質の向上、ハイクオリティーな生活ができるようにも、健康ということは一つ大きく入れていただきたいと思っております。

次に、6ページ目の新ビジョンのこれまでと今後のスケジュールについてお伺いいたします。

いろいろな方に御意見を伺ってこられたと思っておりますし、ミライ・トークも開催されてまいりました。市長の地元有識者などへのインタビューが9月18日に行われているんですが、これは具体的にどなたになさっているのでしょうか。また、10月に行われようとしている高齢者へのインタビューや関係団体、これが具体的に分かれば教えてください。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** まず、有識者へのインタビューの内容について御説明させていただきます。

新ビジョンの検討に当たりましては、北九州市アドバイザー意見交換会とか新ビジョン検討

会議などでアドバイザーや構成員の皆様から意見をいただいているところがございますけども、そうした大所高所の意見、専門分野の意見の補完をするという意味で、地元の有識者の方々に個別のインタビューを策定支援業者と一緒に実施しているところがございます。現在も実施中でありまして、これまでに、北九州市アドバイザーのメンバーの一部の方、市内の地元企業などのトップの方、文化大使とか市内の高校生とか、そういった方々約40人に対して、北九州市が目指す都市像とか将来に引き継ぐべき歴史や価値観、市が持っているポテンシャル、こういったところのインタビューを実施しているところがございます。インタビューの内容につきましては、まとめ次第、随時ホームページ等で公表する予定としております。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上さとこ委員。

**○委員（村上さとこ君）** 高齢者へのインタビューというのは。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画担当課長。

**○企画担当課長** 高齢者へのインタビューでございますが、10月に各区役所と協力いたしまして、高齢者で、かつ働いている、地域活動を行っている、また施設に入所しているなど、多様な背景を持つ方にインタビューを実施しているところがございます。

設問の内容としましては、ホームページ上で皆さんにお尋ねしている内容と同じになりますが、例えば北九州市の強みについて教えてくださいとか、次世代に引き継ぎたい、発展させたいと考える北九州の歴史や価値観について教えてください、また、北九州の未来の町の姿についてお考えをお聞かせくださいということでインタビューを実施しているところがございます。

人選につきましては、先ほど申しました多様な生活背景をお持ちの方を、地域とつながりの強い区役所に協力をいただいているところがございます。インタビューにつきましては、他の御意見と同様に取りまとめた上でビジョンに生かすとともに、いただいた意見を公開するような形にしていきたいと思っております。

もう一点、関係団体で御質問があったと思いますが、以前、元気発進！北九州プラン策定時にヒアリングを行った団体などを参考に、関係各局の協力をいただきながら、市内の関係団体から意見を伺うことにしております。いただいた意見につきましても、他の意見と同様に新ビジョンに役立てていきたいと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上さとこ委員。

**○委員（村上さとこ君）** 高齢者だとか入所している方とかの様々な意見は各区でしっかり聞き取っていただいていると思いますので、ぜひ市長にもフィードバックをしていただきたいと思います。

私が受ける印象、これはあくまで個人的な印象ではありますが、働く女性のミライ・トークといっても、正規で働いている方とか活躍されている方、きらきら女子というんですか、そういう方だったりして、パートや非正規だとか多様な働き方があるのですが、その辺との意見交換や、独り親とか困っている方との意見交換が足りていないのではと思っております。私が武内

市長に期待するのは、厚生労働省出身ということで、様々な世帯、様々な生き方の方々を見てきていらっしゃる、その視点に期待したいところでもあります。華やかな未来の陰に隠れた、見えない、声の届かない方々の声をしっかりと聞いていただきたいと思っております。

ミライ・トークの開催結果についてであります。参加者とユーチューブの視聴回数について、率直にこれが市民に行き届いているかどうか、御感想というか所見をいただきたいんですけれども、どうなんでしょうか。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画担当課長。

**○企画担当課長** ミライ・トークの実施についてでございますが、各区で実施をしまして、今回はエンターテインメントで、こういったまちづくりを考える会に皆さんが参加しやすいように、楽しんで参加をできるようにといった新たな試みをやったり、その中で地域の資源であったり、そういったものも御紹介するといった形で多くの皆さんに参加いただいております。

また、パネラーの皆さんから各区の強みであったり、そういったものを言っていただいて、その中で皆さんが多く気づきを得たり、これからの区、また北九州市のまちづくりをどう考えるのかといったことを考えていただけたと思います。

また、8月17日から市のホームページでウェブのアンケートも実施しております。そちらでもいろいろな御意見をいただいておりますので、そういった御意見を新ビジョンに役立ててまいりますと考えております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上さとし委員。

**○委員（村上さとし君）** ウェブアンケートは、集計で今何件ぐらい来ているか教えてください。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画担当課長。

**○企画担当課長** 10月15日現在でございますが167件で、市内の方が約9割、市外の方が約1割という形で意見をいただいております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 村上さとし委員。

**○委員（村上さとし君）** 広報というのはなかなか難しいものでありまして、ミライ・トークは、市も力を入れて広報している、私も力のある限り周りの人には伝えているんですけども、まず新ビジョンができるということを知らない市民の方も大勢いらっしゃると思いますので、今後もぜひ広げていただきたいと思います。

新ビジョンの素案が11月に取りまとめられて出てくるということで、非常に注目しております。他都市のビジョンも見てみたんですけども、福岡市の基本計画を見ますと、福岡市も生活の質の向上と都市の成長の好循環をつくり出すということを主眼に据えているんですね。北九州市と同じことを言っているなと思ったんですけども、質の高い生活が人と経済活動と呼び込ませて、コピーなのかなと思うくらい全く同じようなことが書いてあったんですが、都市、例えば一概に福岡市と北九州市を比較しても様々な点が違います。人口構造も違います。産業構造も違います。住んでいる人の考え方も違う。一人一人の市民の歴史も違う。そんな中で、



北九州市の市民に沿ったビジョンとなるよう期待していますので、期待を込めて素案を待ちたいと思います。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** それでは、12時になりますので、ここでしばらく休憩をいたします。再開は午後1時とします。

（休憩・再開）

**○委員長（佐藤栄作君）** それでは、再開いたします。休憩前に引き続き質問、意見を受けます。質問、意見はありませんか。三宅委員。

**○委員（三宅まゆみ君）** 意見と要望と質問をさせていただきたいと思います。

一丁目一番地の人口増、これについては、市長は厚生労働省のご出身でもありますので、人口の自然動態とかも承知の上でおっしゃった100万人という数字だと私は思っています。そういった意味で、その実現に向けて、きちんと目標値をあげていただいて、この段階でこのくらいまではいくというようなことを出させていただきたいと、私からも強く要望させていただきます。もしこれに見解があればお聞かせいただきたいと思います。

それから、確かに前の市長の時よりも、正直今のほうが広報が上手になっているとは思いますが、そのことは良いことだと思いますけど、例えばバックアップ機能に関して、バックアップ首都構想という名前ではなかったけど、随分前から八幡東区とかにバックアップ機能ということで企業誘致をしたり、そういうことをやっていて、それを大きく広報して上手にのせていってると感じるんですね。

戻りますけど、人口減少に関して、さっき委員長ともお話をしていて、減少を止めるということはこれまでもやっていたんですね。ですから、これまでと同じじゃ困るんですね、あれだけのことを言っていたいたわけですから、人口をきちんと増加させる。それもしっかりと100万人を目指すということで、100万人という数字をおっしゃったからには、そこをしっかりと出させていただくということが、私は次の計画に求められるのではないかなと思いますので、そこはぜひお願いをしたいと思います。

それからあと、人口を増やすためには、以前から申し上げているんですが、結婚、婚姻をすることが日本の場合は出生数を上げるという意味では大変重要になってくると思います。私が見る限りでは、結婚支援みたいな部分がありません。盛り込まれていないのではないかなと思いますが、そういった新たな支援は考えておられないのでしょうか、お聞かせいただきたいと思います。

それから、私も稼げるまちには賛同するところなんですが、ただ強者だけが稼げるまちではなくて、市民全体として稼げるまちになってほしいと思います。実は、社会保険の関係が変わったりとかで、最低賃金が上がったりしても賃金が総体的に上がっているわけではなくて、逆に下がっているという方が現状たくさんいらっしゃいます。時間数を減らさないと社会保険を掛けないといけないからということで、企業が社会保険を掛けないために時間数を減らすこと

で、全体で見ると、単価が上がったとしても、時間数が減った分だけ逆に少し目減りをしているというような現状もあります。こういうことがあっては、所得の高いところだけが稼いだとしても一般市民の方はなかなかおぼつかない、二極化のゆがんだ町になってしまうのではないかという心配もしております。確かに、リスクリングとかいろんなことをやろうとはしていらっしゃるんですが、なかなかそこに至らないとか、言葉そのものも、さっきから出ているように難しい、一般の方には通じない言葉だと思いますけれど、こういった取組をどのように考えておられて、どのように今後この中に盛り込むのか。触れられているようで、実は所得の低い方についてはあまり触れられていないように感じるのですが、その点についても見解をお聞かせください。以上です。

**○委員長（佐藤栄作君）** 企画課長。

**○企画課長** まず1点目の人口に関する目標値を、新ビジョンの中で掲げるべきではないかという御意見ですが、午前中も委員の皆様から御意見等をいただいておりますので、こちらにつきましては素案の中で、人口に関してどういった形で盛り込んでいくか、検討してまいりたいと思っております。

それと、結婚の支援について、今の中間取りまとめの中ではまだ見えにくいというところですが、確かに、これまで出てきた意見の中で我々としてこういったところが大事だよねという視点で今回整理したところがございます。稼げるまちの実現のところが、まだ具体的には見えてこないということでもありますけども、我々としてはここの柱で、やはり若い世代の方たちが挑戦できる環境をつくっていかないといけないと思っております、そうした中で希望される方が結婚して、出産して子育てをしていくという、それぞれの方たちが希望されるライフスタイルを達成できるような支援というところで、そこら辺の事業につきましては子ども家庭局とか所管のところと協議していきながら、新ビジョンの中でどういった形で見せていけるか、検討しているところがございます。

あと、稼げるまちのところで、二極化でなかなか低所得の方がレベルアップするのは難しいという現状は我々も認識しているところがございます。今の案としましては、例えば非正規雇用の方とかがスキルを身につけてワンランク上の職を目指していただくためのいろいろなサポートとか、そういったところを産業経済局とかも含めたところで、市として今後も力を入れていかないといけないと思っておりますので、そういった方たちも視野に入れたところで、稼げるまちにつきましては今後施策を考えていきたいと思っております。以上でございます。

**○委員長（佐藤栄作君）** 三宅委員。

**○委員（三宅まゆみ君）** 今おっしゃっていただいた稼げるまちのところですよ。

いろんな御相談があって、仕事を探している、時給の安い仕事にしかこれまで就いていらっしやらない方に、こういうのもあるよとか、こういう資格を取ったらとかというふうに後押しをしても、なかなかすぐには、毎日の生活が大変で、現実的には急に資格をばって取りなさい

と言っても取れないという現状もあります。ですから、産業経済局とかともしっかりと連携をしながら、計画の中に、どう所得の低い人を上げていけるのか。所得の高い人はほっておいても上がるんですよ。お金がお金を生むっていうのが現状なんで。例えばお金のある人はアメリカ国債を買ったりとかすれば、それでまた増えていったりとか、今どこにどうすればいいというのを正直よく御存じなんです。ですけど、もっと大変な方たちのベースが上がることによって、町がより豊かになっていくと思いますし、市民の満足度とか様々な幸福度につながっていくと私は思っていますので、そのところの施策もしっかりと。ハイクオリティーというのも、そこはそこで私もあっていいと思います。ハイクオリティーなどところを目指すのはいいんですけど、今の社会はどんどん二極化していって。昔は中間層が多くて、意識もそういう感じだったんですけど、今はあまりにも二極化していっているんで、置いていかれたりとか、また、貧困の中で子供が育つときには厳しい現状があったりとか。子育て支援も今、国もいろいろやっているんですけど、遅きに失した感じがして、人口が物すごく減った状態で子育て支援をばんばんやって、ここで産んでくださいと言っても、産める年代の方がすごく減っている現状で子育て支援をしたからといって、極端に増えるということは考えにくいと思います。この中に書いてあるように、働きながら子育てするのを支援するというのは非常に重要だと思いますけど、仕事を持っている女性が仕事を続けながら4人も5人も子供を産むということは、やっぱり現実的じゃないですよ。ですから、そこを踏まえた上で子育て支援等は様々な連携が必要だと思いますし、まず何よりも結婚をして子供が欲しいと思うような施策が求められるのではないかと、私はそう思います。無理やり結婚させるとか、そういう話をしているわけではなくて、今あまり興味ないなと思う人が結婚したいなと思うような施策、結婚して子供を持ちたいなと思うような施策が私は今から必要じゃないかと思っていますので、ぜひその点もお願いをしたいと思います。

人口増については、とにかく減少を止めるということではなくて増やすということを目指して、しっかりと掲げていただきたいと再度お願いをして、終わります。

**○委員長（佐藤栄作君）** ここで、副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

**○副委員長（三宅まゆみ君）** 佐藤委員。

**○委員（佐藤栄作君）** 新ビジョンについてなんですけれども、まず大前提として、新ビジョンをつくっていくにあたって、市長の公約がしっかり反映されるべきだと考えています。市長の公約こそまさに武内市長のカラーだと思いますし、それに期待した皆さんが1票を投じて武内市長が誕生したわけですから、そこはしっかり軸として武内市長の公約がこの新ビジョンに示されるべきであると思います。武内市長は選挙戦の中で基本政策を示されているんですけども、その中に北九州市の本当の課題ということで幾つか挙げられています。特徴的なのはやはり人口減少、それから財政危機、そして経済の停滞、この課題を私は解決するんだということ

を訴えてこられたわけでありますから、この解決策、そしてこれが解決されていくであろう方向性というものをしっかり示していかないといけないのではないのでしょうか。

まず、稼げるまちなんですけれども、今回の報告の中で、成果指標として市内総生産とか経済成長率、雇用の創出数というところがあるんですけれども、今、アベノミクスの成果が出始めてきていて、全体的に国内の景気が上向き始めている、経済が成長に向かっていると思っています。その一つの例が円安だと思うんですよね。円安によってGDPも伸びてきて、全国どの自治体も税収は過去最高というような形になってきていると思います。ですから、市内総生産、経済成長率とか雇用創出数というのは一つの成果指標として正しいと思いますけれども、今の基調が続くのであれば、これは全国どこでも上向いていくんじゃないかなと捉えております。であれば、北九州ならではの成果指標もこの新ビジョンの中に示すべきだと思っています。それは何かというと、賃金、所得を増やすということではないのでしょうか。武内市長も基本政策の中で、市民雇用者1人当たりの市民雇用者報酬、これが全国でも突出して減少しているのが北九州市でありますと言われておりますので、ぜひ新ビジョンの策定に当たっては1人当たりの稼ぎ、所得を増やすということもしっかりと入れていただきたいと思っています。これは武内市長の公約でありますので、そこをしっかりと入れていただきたいと思いますが、御見解を伺いたいと思います。

それから、北九州市の本当の課題の中でもう一つ、財政危機ということがうたわれております。財政破綻しそうな都市、全国ワースト2位と言われているわけですから、財政を健全化してほしいという市民の期待を受けて当選した以上、新ビジョンには財政の健全化をしっかりと入れていただきたいと思っています。その上で具体的な行動計画等で、市債残高をどこまで減らすのか、発行額をどうするのか、そういったところが見えてくるとと思いますので、健全な財政をつくるということも新ビジョンの中に入れていかなければならないのではないかと、御見解を伺いたいと思います。

それから最後に、人口なんですけど、皆さんからさんざん御意見が出ていますけれども、北九州市の最大の課題は人口問題だと思っています。北橋市長もそこに注力して、人口減少に歯止めをかけるために社会動態も具体的に目標を定めて取り組んできて、その成果が今出てきているところであります。武内市長が公約で100万都市の復活ということを掲げた以上、新ビジョンの旗頭というか北極星としてしっかり僕は掲げるべきだと思いますし、これまでもこの委員会の議論の中でそうすべきだという意見が各委員から出てきております。これについて答弁はありましたけれども、今日の委員からの意見、これまでの委員からの意見で、100万都市復活を掲げるべきだと、新ビジョンの中に入れるべきだというようなことを市長にきちんと伝えていただいていますか。それについてお答えいただきたいと思っています。以上です。

**○副委員長（三宅まゆみ君）** 企画課長。

**○企画課長** 委員長から4点御質問いただきました。

まず1点目に、市長の公約については新ビジョンの中にきちんと反映していくべきだという御質問がございました。当然のことながら、市長の公約というのは武内市長の今後の政策の大きなカラーになってくると思いますので、新ビジョンにぶら下げていく施策等を検討していく上では、市長の公約等も見ていきながら検討しているところでございます。

2点目に、稼げるまちの成果指標に1人当たりの所得を設けるべきではないかという御質問がございました。確かに、先ほども稼げるまちの主語は何なのかという御質問がございましたけども、市内企業が稼いで、そこで働く方々の所得が上がっていくというのが目標になりますので、1人当たりの所得額が成果指標として掲げられるかどうかにつきましては、関係局とも協議しながら前向きに検討してまいりたいと思っております。

それと3点目に、財政健全化につきまして新ビジョンの中にきちんと盛り込んでいくべきではないかという御質問でしたけども、新ビジョンの検討と同時並行で、市政変革推進室で市政変革推進プランの検討を進めているところでございます。新ビジョンで掲げる今後取り組んでいく施策を打っていく中で財源を生んだりとか、市政の運営基盤の見直しとか、そういったところが市政変革推進プランで今後掲げられてくるものと認識しておりますので、市政変革推進プランと足並みをそろえていきながら、新ビジョンの中で財政健全化をどういった形で盛り込むかということも含めまして、市政変革推進室や関係部署と一緒に整理してまいりたいと思っております。

最後に、人口100万都市の復活について、新ビジョンの中に掲げるべきかどうかというところを市長と協議しているかでございますけども、新ビジョンの検討に当たりましては、市長とも随時タイミングに応じて協議しているところでございます。人口につきましても、これまでも、午前中も申しました人口の専門家との意見交換とか、そういったところも含めて市長に報告して協議をしているところでございますので、そこにつきましても今日各委員からいただいた御意見も踏まえて市長に報告していきながら、引き続き新ビジョンの検討を進めてまいりたいと思います。以上でございます。

**○副委員長（三宅まゆみ君）** 佐藤委員。

**○委員（佐藤栄作君）** ありがとうございます。まず、人口なんですけど、市長といろいろ協議しながらということですが、総務財政委員会からの人口については100万都市復活という市長の公約をしっかりと反映させるべきだという意見を伝えていただいていると思うんですけども、それに対して市長はどのような考え方でありますか。

**○副委員長（三宅まゆみ君）** 企画課長。

**○企画課長** 午前中の答弁でも申しましたとおり、人口につきましては各政策の取組の結果ということがいろんな御意見の中でもございまして、そういった意見も踏まえながら市長は今検討されているところだと思います。総務財政委員会での御報告等は随時させていただいておりますけども、今、市長もいろいろと検討されているところであると思っております。以上で

ざいます。

**○副委員長（三宅まゆみ君）** 佐藤委員。

**○委員（佐藤栄作君）** 人口増については各政策の結果ということは十分理解していますし、それは当たり前の話だと思うんですよね。それは誰が市長になっても同じだと思うんですよ。その中でも武内市長は、100万都市を復活させるという本当に難しい課題にあえて挑戦すると公約されたわけですから、今までの北橋市長の取組以上のものをしっかり示していただかないと、こうした結果を出すことはできないと思いますので、重ねてになりますけども、しっかりとこの目標を定めていただくように要望しておきたいと思います。

それから、稼げるまちなんですけど、先ほどの議論の中で岡本委員からもあったんですが、全国どの町もいろんなことをやっているし、北九州よりも進んだ取組をやっているところもたくさんある中で、北九州の強みを生かして、その強みを武器に稼いでいくということが大事かなと思うんですよね。そのときに、じゃあ、北九州の強みって何なのかなど。いろんなものがあると思うんですけれども、その一つはやっぱり輸出じゃないかなと。いろいろインターネットで調べたんですけれども、北九州はものづくりの町ということで、付加価値の高い製造品の出荷額が福岡県の中でも半分弱のウエートを占めているということなので、輸出というのは非常に大きな強みではないかなと。また、円安の基調が今後も続くということであれば、日本全国、九州においても輸出というのは伸びてくるだろうと思いますので、九州全体のものを北九州に集めるということは難しいかもしれませんが、例えば北部九州とか東九州とか、そういったところから北九州に物を集めて、北九州から世界に輸出をしていくということをさらに強化していくことで、いろんな意味で稼ぐことにつながっていくと思います。ぜひそういった視点もビジョンの中に盛り込んでいただけたらと思いますが、見解を伺います。

**○副委員長（三宅まゆみ君）** 企画課長。

**○企画課長** 委員がおっしゃられたように、輸出というところでは、これまでの北九州市のものづくりとか製造業の強みというところもございますし、稼げるまちの3ページ目に産業関係とかでキーワードとして入れています。環境、脱炭素とかエネルギーとか、そういったところに、これまで先進的に取り組んできた強み等もございます。それに、②のインフラ関係で物流、人流の活発化に向けたインフラ整備ということで、陸海空、物流のインフラ等も整っているという強みもございますので、こういったところを生かしながら、委員がおっしゃられた輸出とかそういった強みの中で、稼げるまちをビジョンの中で示していきたいと思っております。以上でございます。

**○副委員長（三宅まゆみ君）** 佐藤委員。

**○委員（佐藤栄作君）** 分かりました。武内市長に期待をしている市民の皆さんがたくさんおられますので、ぜひ期待を裏切らないように、その期待をしっかりと見える形で様々な取組を実現していただきたいと思います。以上、要望して終わります。

**○副委員長（三宅まゆみ君）** ここで、委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

**○委員長（佐藤栄作君）** ほかにありませんか。

ほかになければ、次に、大都市財政の実態に即応する財源の拡充についてを議題とします。

本件については、従来より、指定都市市議会の税財政関係委員会の委員が共同し、政党ごとに、各政党、衆・参両院総務委員会及び地元選出国會議員に対して要望活動を行っております。

今年度については、10月5日に開催された指定都市の税財政関係特別委員長会議において、お手元配付の資料のとおり要望活動を行うことが決定しております。先日の委員会で派遣が決定している委員におかれましては、それぞれの日程で要望活動を行っていただきますようお願いいたします。

それでは、大都市財政の実態に即応する財源の拡充についての要望について、当局の説明を受けます。財政企画担当課長。

**○財政企画担当課長** それでは、大都市財政の実態に即応する財源の拡充についての要望、通称青本につきまして御説明いたします。

タブレットの令和6年度大都市財政の実態に即応する財源の拡充についての要望をお開きください。

この要望書は、中長期的な観点から税財政制度の改正等に関する指定都市共通の要望事項を取りまとめたものであり、各都市の議会と執行部が共同して要望を行うものでございます。タブレットのページに沿って御説明いたします。

タブレットの6ページを御覧ください。

まず1点目は、真の分権型社会の実現のための国、地方間の税源配分の是正でございます。

要望①は、現在、国、地方間における税の配分が6対4であるのに対し、税の実質配分では3対7と逆転しています。その実態を踏まえ、消費税、所得税、法人税など複数の基幹税からの税源移譲を行い、国、地方間の税の配分をまずは5対5とすること。さらに、国と地方の役割分担を抜本的に見直した上で、その新たな役割分担に応じた税の配分となるよう、地方税の配分割合を高めていくことを要望するものでございます。

また、要望②は、地方自治体間の財政力格差の是正は、法人住民税などの地方税収を減ずることなく、国税からの税源移譲など、地方税財源拡充の中で地方交付税なども含め一体的に行うことを要望するものでございます。

次に、8ページを御覧ください。

2点目は、大都市特有の財政需要に対応した都市税源の拡充強化でございます。指定都市では、大都市特有の財政需要を抱えているにもかかわらず、都市税源である消費・流通課税及び法人所得課税の配分割合が極めて低いことから、これらの都市税源の配分割合の拡充を要望するものでございます。

次に、10ページを御覧ください。

3点目は、事務配分の特例に対応した大都市特例税制の創設でございます。指定都市は、事務配分の特例により道府県から移譲されている事務、権限を担っているにもかかわらず、その必要な財源について税制上の措置の不足が生じております。この税制上の措置不足について、税源移譲による配分の見直しを行い、大都市特例税制を創設すること。また、新たに道府県から指定都市に移譲される事務、権限に必要な財源についても指定都市への税制上の措置を要望するものでございます。

次に、12ページを御覧ください。

4点目は、個人住民税の一層の充実でございます。市町村の基幹税目である個人住民税について、依然として市町村の配分割合は低い状況でございます。そのため、国、地方間の税源配分を是正し、より一層の充実を図ることを要望するものでございます。

次に、14ページを御覧ください。

5点目は、固定資産税等の安定的確保でございます。要望①から17ページの要望④において、個人住民税と同様、基幹税目である固定資産税について、国の経済対策等に用いず、安定的な確保を図ることなどを要望するものでございます。

次に、18ページを御覧ください。

6点目は、国庫補助負担金の改革でございます。要望①は、国と地方の役割分担の見直しを行った上で、国が担うべき分野については必要経費全額を国が負担するとともに、地方が担うべき分野については国庫補助負担金を廃止し、所要額を全額税源移譲することなどを要望するものでございます。

次に、19ページを御覧ください。

要望②は、税源移譲されるまでの間も、地方が必要とする国庫補助負担金の総額を確保するとともに、超過負担が生じている事業につきましては、これを解消することなどを要望するものでございます。

次に、20ページを御覧ください。

7点目は、国直轄事業負担金の廃止でございます。6点目の国庫補助負担金の改革と同様に、国と地方の役割分担の見直しを行った上で、国が行うこととされた国直轄事業については、地方負担を廃止すること。また、現行の国直轄事業を地方へ移譲する際には、所要額を全額税源移譲することなどを要望するものでございます。

次に、22ページを御覧ください。

8点目は、地方交付税の必要額の確保と臨時財政対策債の廃止でございます。要望①は、地方交付税は地方固有の財源であることから、国の歳出削減を目的とした総額の一方的な削減は行わず、今後も増大する財政需要などを適切に踏まえ、必要な額を確保すること。また、地方が保有する基金の増加や現在高を理由とした削減は決して行わないことなどを要望するもので



ございます。

次に、23ページを御覧ください。

要望②ですが、地方財源不足の解消は地方交付税の法定率引上げなどによって対応し、臨時財政対策債は速やかに廃止することなどを要望するものでございます。

次に、24ページを御覧ください。

9点目は、地方債制度の充実でございます。要望①は、公共施設等適正管理推進事業債について、公用施設も対象とするとともに、長期的な視点で計画的に対策を進められるよう恒久的な措置とすることを要望するものでございます。

最後に、25ページを御覧ください。

要望②は、将来の公債費負担を軽減するため、地方債のうち公的資金について借入条件を改善し、指定都市への配分を増やすとともに、地方債の償還期間について施設の耐用年数に応じた弾力的運用を行うことなどを要望するものでございます。

以上で、大都市財政の実態に即応する財源の拡充についての要望について説明を終わります。

**○委員長（佐藤栄作君）** ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。

質問、意見はありませんか。

なければ、次に、本市の個別要望事項についてお諮りいたします。

本件については、従来から本市の要望事項を議会で取りまとめ、各政党に対して要望活動を行うものです。

今年度は、お手元配付の資料のとおり、1、エネルギー価格等の物価高騰対策関連、2、北九州空港の機能強化・利用促進に向けた支援、3、カーボンニュートラルの実現に資する洋上風力発電関連産業をはじめとしたエネルギー産業の総合拠点化に向けた支援、4、下関北九州道路の早期実現、5、首都圏に集中する企業等の地方移転の推進、6、学校ICT環境の推進・維持に係る財源の確保、7、脱炭素社会実現に向けた水素拠点形成及びサプライチェーン構築の支援の7項目としたいと思います。

これについて御意見はありませんか。

なければ、ただいま御説明いたしました要望事項を本市の個別要望事項とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

ほかになければ、以上で所管事務の調査を終わります。

本日は以上で閉会します。

---

総務財政委員会 委員長 佐藤 栄作 印  
副委員長 三宅 まゆみ 印